



2500年前（縄文時代）の土土耳かざり
 【国の重要文化財】



ほぼ完全な形で発掘されたミニ銅鐸
 【お隣の染地遺跡発掘】



奈良時代の火葬墓



現在の狐塚古墳
 (下布田6号墳・奈良時代末期)

前号の「地域の活躍人」で紹介した調布市郷土博物館学芸員の立川さんに、引き続きこの地域の古代の歴史のお話をお聞きしたので今回は続編として紹介します。

布田小の北東約100メートルに広がる下布田遺跡は、昭和62年（1987年）に国史跡に指定された縄文時代晩期の重要な遺跡。二千年以上前の縄文時代、同じ下布田の大地で縄文の人々はどんな暮らしをしていたのだろうか。そんな想像を巡らせ、感じられる

ような施設の整備計画が現在進んでおり、立川さんもその担当をされている。認識を新たにしたのは縄文時代が一万年も続いたということ。縄文の時代は気候が温暖で、縄文海進と呼ばれるのだが、海岸線も現在よりも内陸にあり、狩猟や採集でも十分豊かに暮らすことができたらしい。それが晩期になると気候が寒冷化し、今風に言えば住みにくい世の中になって全国的にも人口が減少してし

まった。次の弥生時代以降の遺構・遺物が主に発掘されているのは、布田小の東、染地二丁目から多摩川住宅に広がる染地遺跡で、弥生時代から古墳・飛鳥・奈良時代にかけての竪穴住居跡が多数見つかっている。言い換えば千五百年ほどの昔からこの地域には多くの人々が住み、集落を形成していたのだ。もちろん現在の密度とは比較にならないだろうが、やはり住みやすい地域だったのだろうか。染地遺跡から見つかったベルトの

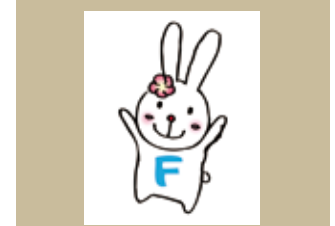
二面に続く

バックルは、府中に置かれていた武蔵国府に勤めていた役人が使っていた物と考えられており、奈良時代の昔にも地域の住居から府中まで通勤していた人がいたのも興味深い。

前号で紹介した小銅鐸も、染地遺跡から奇跡的に良好な状態で見つかったのだが、時代的には弥生時代中期から古墳時代前期のものと考えられている。古墳とは墳丘状の墓のことで、調布市内に数多く見つかった古

前号の「地域の活躍人」の続き
特集
地域の遺跡群
 布田六丁目・染地二丁目の原始・古代の歴史

ハッピーうさこ
 キャラクター紹介



当地区協が発足した当時に、布田小学校で飼っていたうさぎをイメージシンボルにしました。

EZYランチ
パック
ハッピー子ども食堂

コロナ禍でハッピー子ども食堂が開催できなくなり、その代替事業としてこれまで15回実施しました。申込募集は、WEB専用アプリで行います。当地区協のWEBサイトをご参照ください。



第13回（9月）配布の内容

10筋
10の筋カトレーニング

ハッピータウン主催のフレイル予防の「10筋トレーニング」の今年度は2月24日、3月24日です。いずれも10時～11時半、参加申込不要です。来年度は月2回の開催を予定しています。詳細はWEBサイトをご参照ください。



会場は布田南部自治会館2階

漢検
サポーター
地域学校協働本部

昨年1月29日（土）に布田小で第1回の日本語漢字検定を行い、この2月に第3回を開催します。受検者も116名となり、少しずつ浸透しているかと感じます。年2回（夏と冬）の漢検実施をお手伝いいただけるサポーターを募集集中です。詳細は地学協・漢検担当山本（090-9140-1891）



漢検に挑戦する子どもたち

地区協議会で一緒に活動しませんか？
運営委員さん募集！

活動の柱

- ① 安全で安心して暮らせるまち
- ② 健やかで明るい子どもが育つまち
- ③ シニア世代が健康で暮らせるまち
- ④ 歴史ある愛するふるさとのまち



【詳しい活動内容はこちらのWEBで↓】

開催場所はこころの健康支援センターとZOOMの二元開催なので、夜外出しなくても参加できます

布田小地区ハッピータウン協議会
 ホームページ
<https://happy-usako.jp>



はっぴーなきずな

自分の余生、今までにお世話になった人々、母校、地域などに恩返しをしながら過ごすのもいいかなと思う。その中に布田地区協があって良かったと思う今日このごろ。感謝はいらない、自己満足でいい。いつまでもつやう。

（中谷俊一）

昨年夏頃から孫たちと虫取りや砂遊びなどで公園に行き、童心に帰って楽しんでます。そして徐々にですが、砂遊びしている親子や、虫取りをしている子供たちを見かける機会が増えてきていると思い、以前のような子供たちのいる公園に戻ってきていることを嬉しく感じます。

（林田紀子）

昨年、やぎを活用した除草で、子どもから大人まで注目を集めた下布田遺跡。整備事業が進む中、ワークショップでは、地域の方々に興味や感心を持ってもらえるようなイベントを計画中です。皆さんの参加を待っています。

（坂下幸）

◇ 「ひろがり」 ◇

昨年の四月から布田南部自治会館の2階で始まった10の筋カトレーニングの参加者が毎回15、18人程度に増えてきました。

簡単な上下半身の動作の繰り返しを十種目に分け、一セット30分を二セット行います。ゆっくり動かすほど筋肉には効果があり、息があがる動きでもないのに、もかかわらず、最後のほうは汗ばむほどです。

普段よく歩く人も、上半身の肩や腕などはあまり動かすことが多くないので、メニューの一つにあるごく簡単な動きがきつく感じることもあつたようです。

また、ここに通ってくる方は、フレイル予防を自ら意識して実践できますが、身近な人や知り合いにも声を掛け誘い合って参加すること、それがきっかけでコミュニケーションが広がり、健康で明るい町づくりの基本ができてくるような気がします。来年度からは、開催を月二回に増やし、一人でも多くの方の参加を待ちたいと思います。

皆さんが愛するこの地域の願いや希望がそこに住む全員の未来への光となるよう、当地区協へのご理解とご協力のほどをよろしくお願ひ申し上げます。

布田小地区ハッピータウン協議会
 会長 依田耕児



整備整備開始の先立ち、ヤギを使った
エコ除草作業が10月に行われた

墳の中でも、布田6丁目の
狐塚古墳は東京都でも最
大級の円墳と言われてお
り、都の史跡にも指定され
ている。狐塚古墳を始め市
内の古墳のほとんどは、立
川段丘の縁辺部（いわゆる
ハケの上縁）に集中してい
る。竪穴住居跡が見つかる
染地遺跡はハケ下に位置し
ていることから、人々の日
常生活を見守るような所に
古墳を作ったのだろう。

竪穴住居と聞くと登呂遺
跡に代表されるように、弥
生時代が中心だったと思っ
ていたが、古墳時代はもと
より奈良・平安の頃でも庶
民は竪穴式の住居に住ん
だのだそう。ただし同
じ竪穴式とは言っても、円
形でその中心に炉を燃やす
ものから、方形で一辺に寄
せて煮炊き用のかまどを設

置した形のものなど、変遷
があるとのこと。一般の
人々が床のある住居に住み
始めたのは600年ほど前
の源平合戦の頃と言うか
ら、それ以前の庶民の冬は
冷えた地面が近くてさぞ寒
かっただろう。一方、立川
さんが専門の考古学的に
は、住居に床が出来たこと
によって、竪穴式の時代に
比べて遺跡が残りにくいと
のこと。遺物にしても石器・
土器に対して木器は朽ちて
しまうので、残りにくいの
だそう。



考古学の口マンを熱く語る立川さん

は、布田五宿と呼ばれた
9軒の旅籠が点在する宿
場があったそう。また、
江戸時代末期に描かれた
「上布田中央部絵図」には、
現在の白山宮の元と思わ
れる鳥居の印が書き込ま
れているとのこと。
立川さんのお話を聞いて
いると、今我々が日々の
生活を送っている布田小
地区という地域には、縄
文・弥生といった原始の
時代から、古墳・奈良時
代を経て近世の江戸時代、
そして現代に至るまで、
その時代の人々の喜びや
悲しみが積み重なって
いることが感じられてくる。
立川さんはそれを「歴史
的重層感」と表現された。
地域に住む皆さんにはそ
の一部でも感じ取って頂
ければ幸甚である。

(取材・文 藤田秀雄)

地域のシンボル

布田小地区ハッピータウン協議会では、今後、調
布市が行う下布田遺跡の整備事業の進行に合わせ、
その周辺一帯を、この地域のシンボルとして情報発
信やイベントの企画などを行っていきます。

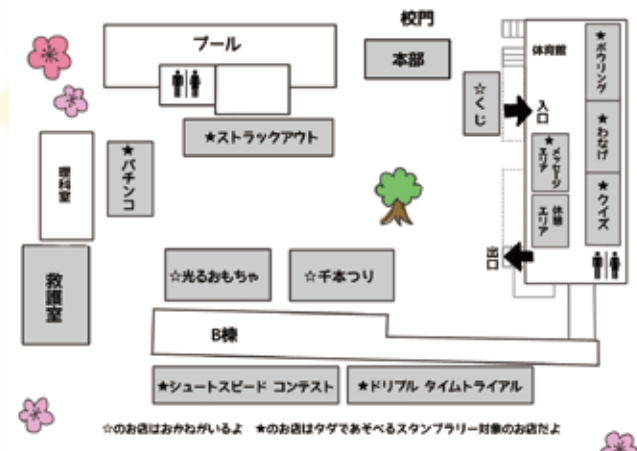


国史跡 下布田遺跡整備事業



布田小秋まつり

10月29日【土】



この秋一番の秋晴れの空
の下、健全育成、開放
PTA、それに布田小の共同
主催による秋祭りが10月29
日の土曜日に行われた。コ
ロナ禍のため、盆踊りも、
白山宮の子ども祭りも中止
続き。秋祭りも3年ぶりの
開催となった。

後3時から4時半までは高
学年に分散、どちらも保護
者の同伴はなし、会場での
飲食もなしというコロナ以
前に比べれば少し窮屈では
あるものの、子供たち特に
低学年の子供たちにとって
は入学以降初めての秋祭り
となった。自ずと子供たち
のテンションも上がり、ゲー
ムの列に並んだ友達同士、
残ったお小遣いでどのゲー



パチンコ



光るおもちゃに並ぶ子どもたち

ムをやるうかと真剣に話
し合う姿が、何ともかわ
いらしかった。
校門を入った体育館前
の広場には5つほどのテ
ントが設置されて、千本
つりやストラックアウト
などのゲームをすること
ができ、景品がもらえる
ゲームは1回百円、それ
以外は無料なので、それ
ぞれに目を輝かせた子供
たちの行列ができ、運営
側の大人も中にはハロ
ウインの仮装をしている
人もいて、双方とても楽
しそう。また、体育館の



ドリブルタイムトライアル



くじ

中ではボーリングゲーム
校庭の一角にはサッカー
ゲームのスペースが用意さ
れて、得点を競う子供たち
の列ができていた。
久しぶりに学校での秋祭り
を楽しんだ子ども達も、忙
しい日常の時間を割いて準
備をし当日の運営に携わっ
た各団体の役員の皆さん
も、この日の秋空そのまま
に清々しい笑顔が印象的な
イベントだった。

(取材・文 藤田秀雄)



ストラックアウト



千本つり



調布市では4団体（個人）が受賞



田中一男さん 山本光則さん

日本善行会表彰

布田小学校みまもりあんしんアテンダント

布田小学校の通学を見守るボランティア、通称「布
田小学校みまもりあんしんアテンダント」が、長年
にわたる日常活動の功績を認められ、日本善行会の
表彰を受けました。
去る12月26日（月）午後2時、調布市総合福祉セ
ンターにて表彰式が執り行われ、表彰状と楯が授与
されました。
当日は当アテンダント最長老の田中一男氏（86歳）
と山本光則氏（75歳）が団体を代表して出席し、表
彰状と記念の盾を受け取りました。

(※)一般社団法人・日本善行会・昭和12年設立、会長・
勝野賢介（元内閣府賞勲局長、日本全国の会員組織により国
内個人団体の善行活動を推進・表彰する。
令和4年度秋季表彰対象は全国三百九十六個人・団体に及
ぶ。うち東京都は四十八件、調布市は四件が受賞した。

布田小学校
みまもりあんしんアテンダント
ボランティア募集中